

国際日本研究専攻前期

専攻共通科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
01DR002	プロジェクト演習2	2	3.0	2	通年	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。また、中間報告を終え修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。	対面(オンライン併用型)
01DR005	プロジェクト演習2A	2	3.0	2	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。また、中間報告を終え修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。(既に中間報告を行った者のみが履修可。ただし、学位プログラムリーダーが必要と判断した場合、再度中間報告を行うこと。修士論文提出後、口頭試問を行う。)	9月修了予定者向け。 既に中間報告を行った者のみが履修可。指導教員の許可が必要。 対面(オンライン併用型)
01DR006	プロジェクト演習2B	2	3.0	2	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。また、中間報告を終え修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。(既に中間報告を行った者のみが履修可。ただし、学位プログラムリーダーが必要と判断した場合、再度中間報告を行うこと。修士論文提出後、口頭試問を行う。)	3月修了予定者向け。 既に中間報告を行った者のみが履修可。指導教員の許可が必要。 対面(オンライン併用型)

専門科目(ディシプリン共通科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
01DR061	リサーチ・プログラム開発1	2	2.0	1	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができる。	事前に申請・許可が必要。 OABE300と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
01DR062	リサーチ・プログラム開発2	2	2.0	1	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1」とは別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要。 OABE301と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

01DR063	リサーチ・プログラム開発3	2	2.0	1	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2」とは別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要。 OABE302と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
01DR064	リサーチ・プログラム開発4	2	2.0	1	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(前期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」は複数教員で評価する。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3」とは別のものでなくてはならない。	事前に相談・許可が必要。 OABE303と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

専門科目(国際日本人文科学学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
01DR549	朝鮮半島の思想と文化1A		1	1.0	1	秋AB	火2 嚴 錫仁	中国・韓国(朝鮮半島)・日本の東アジア地域は、古くから漢字文化圏、それにちなんて儒教文化圏とも呼ばれてきた。本授業では、東アジアにおける儒教思想、特に中国宋代の新儒学の勃興以降の展開と特徴を比較的な観点で考察することを目的とする。とりわけここでは、韓国の儒学思想史を対象として、壇君神話や新羅の花郎道にみえる思想的な特徴、三国時代と高麗期において仏教が思想的な主流をなしているなかでの儒学思想の展開様相と役割、そして高麗後期に受容された朱子学の展開様相などを概観する。朱子学の展開様相では、高麗・朝鮮の易姓革命をめぐる朱子学の担い手である新進士大夫たちの理念と行動、それに基づく朝鮮時代初期の官学派と士林派の葛藤と展開、その中に現れている朝鮮儒学の特徴などを考察する。	いずれも2~6時限。 西暦奇数年度開講。 OABE019と同一。 対面
01DR583	比較文学論2A		1	1.0	1・2			近現代の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を学ぶことによって、近・現代文学研究における新たな視野を獲得することを目的とする。内外の研究者による、ジェンダー理論やポストコロニアル理論を用いたテキスト研究の具体例に触れ、こうした研究に関する知識を得ることで、比較文学研究の視点を体得し、履修者の修士論文に向けての研究に生かす。「比較文学論1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE322と同一。 オンライン(対面併用型)

01DR593	日本文化研究1A	1	1.0	1・2	春AB	月4	石塚 修	世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいままでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。	西暦奇数年度開講。 OABE022と同一。 対面
01DR595	日本文化研究2A	1	1.0	1・2				世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいままでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本の文化と文芸1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE324と同一。 対面
01DR654	比較メディア思想A	1	1.0	1・2				本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	西暦偶数年度開講。 OABE032と同一。 対面(オンライン併用型)

専門科目(国際日本社会科学学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
01DR120	日本社会と計量分析1A	1	1.0	1・2	春AB	月2	崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析の概要、基礎集計(度数分布、記述統計(代表値、散布度)など統計の基本概念を理解し、計量分析1Bを勉強するための土台作りを行う。	教室は人社A316 OABE052と同一。 対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)
01DR123	日本社会と計量分析演習1B	2	1.0	1・2	春AB	木3	崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析1Bに相当する知識(相関分析、回帰分析)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、計量分析2Aで学んだSPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を土台とし、高度な分析(相関分析、回帰分析、因子分析、各種検定など)を行う。	教室は人社A316 OABE353と同一。 対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)
01DR205	グローバル経済と日本(金融と日本社会)1A	1	1.0	1・2	秋AB	金5	高橋 秀直	この講義の目的は、19世紀末から20世紀にかけての日本経済の発展を国際金融の視点から見直す講義である。主に、日本が19世紀末のグローバル経済に参加した当時の国際金融の世界について説明する。そのうえで、日本と世界経済の関わりを検討する。	西暦奇数年度開講。 OABE064と同一。 対面
01DR241	グローバル社会と日本(法と現代社会)1A	1	1.0	1・2	春AB	月4	宮坂 渉	法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、生殖医療、義務教育、校則、少年犯罪、就職活動等、現代日本の社会問題について法的な観点から講義した上で、質疑応答を行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	教室は人社A316 西暦奇数年度開講。 OABE075と同一。 対面

01DR242	グローバル社会と日本 (法と現代社会) 1B	2	1.0	1・2	秋AB	月4	宮坂 渉	法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、労働法、死刑制度、環境問題、多重債務者、安楽死・尊厳死、相続等、現代日本の社会問題について法的な観点から講義した上で、質疑応答を行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	西暦奇数年度開講。 OABE076と同一。 対面
01DR243	グローバル社会と日本 (法と現代社会) 2A	1	1.0	1・2				法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、生殖医療、義務教育、校則、少年犯罪、就職活動等、現代日本の社会問題について法的な観点からディスカッションを行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	西暦偶数年度開講。 OABE375と同一。 対面
01DR244	グローバル社会と日本 (法と現代社会) 2B	2	1.0	1・2				法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、労働法、死刑制度、環境問題、多重債務者、安楽死・尊厳死、相続等、現代日本の社会問題について法的な観点からディスカッションを行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	教室は人社A316から人社A201へ変更。 西暦偶数年度開講。 OABE376と同一。 対面
01DR262	グローバル経済と日本 (日本経済発展論) 1	1	1.0	1・2	春AB	水3	高橋 秀直	この講義の目的は、19世紀から現在までの日本経済の発展について学ぶことである。本講義では、特に、中心国と周辺国の間の非対称的な国際関係の視点から、19世紀の日本経済がグローバル経済に参入する際に直面した課題を検討する。現在の日本は世界経済をけん引する国の一つとなったが、19世紀末においては、当時のグローバル経済に関わり始めたばかりの新興国の一つであった。当時の日本経済の経験を学ぶことは、現在のグローバル経済に関わらざるを得ない新興国にとっても有益な示唆を与えるであろう。	いずれも3~4時限に実施。 OABE065と同一。 英語で授業。 所属主専攻の科目番号で履修登録すること

専門科目 (国際日本複合研究学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
01DR305	韓国の家1		1	1.0	1・2			韓国社会における「家」について他文化圏との比較考察を交えつつ学ぶ。韓国の「家」は、伝統的に儒教思想の強い影響下にあったが、植民地の時代を経ながら、また近代化の進行の中で変貌を余儀なくされている。現代においては高齢化問題、少子化問題の深刻化が進み、政治・社会・経済の変動にともなう、老父母扶養の問題、夫婦間の役割問題、親子間の価値観問題なども顕在化している。この授業では、朝鮮時代を中心とする韓国の伝統的な「家」像と、近代化の過程で現れている「家」の現住所について、家族制度、家族倫理、家庭教育といった側面から、他文化圏との比較考察を交えつつ、その模様を考察する。韓国の家族制度、家族倫理、家庭教育に関する原典資料および研究書・論文を読みながら、討議・説明する。	西暦偶数年度開講。 OABE311と同一。 対面

01DR318	日本社会と外交2B	2	1.0	1・2					本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は1990年代以降の時代を対象とするが、第二次世界大戦終戦後の時代(1940年代後半から1980年代後半までの「冷戦期」並びに「ポスト冷戦期」)に重点を置く。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan 1」も併せて履修することが必要である。	西暦偶数年度開講。 OABE345と同一。 対面 英語で授業。
01DR350	日本古典文化と身体1	1	1.0	1・2	春AB	火2	嚴 錫仁	東洋思想では気をもって人間の身体を説明し、その関連で養生論を発達させてきた。広く東洋思想の中の気論・養生論を概観しながら、日本の古典に現れる気・養生論の特徴を考察する。この授業を通して、東洋思想の中の気論、養生論について知識を広め、日本的な気論と養生論の特徴を理解する。東洋思想と日本思想の中の気論、養生論に関する原典資料および研究書・論文を読みながら、討議・説明する。特に貝原益軒の『養生訓』について詳論する。	西暦奇数年度開講 01DR350と同一。 西暦奇数年度開講。 OABE314と同一。 対面	
01DR383	ソフト・パワーのメディア文化政策1	1	1.0	1・2	春AB	火5	白戸 健一郎	本授業はメディア研究の生成とその歴史的社会的背景を考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究にはそのような歴史的社会的背景が色濃く影響している。本授業では、メディア研究やその中の種々の理論や批評がいかんして生まれたのかを歴史的社会的連関の中で考察し、そこから透過できる日本社会とメディア思想についての理解を深めることを目的としている。授業は適切なメディア研究と近現代日本史に関するテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	教室は人社A316 西暦奇数年度開講。 OABE031と同一。 対面(オンライン併用型)	
01DR384	比較広告・宣伝論1	1	1.0	1・2				本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。「比較メディア思想1」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE332と同一。 対面(オンライン併用型)	
01DR388	アジアのCMC 1	1	1.0	1・2	春AB	火6	海後 宗男	この授業では、メディアとコミュニケーションの研究方法に関する文献を輪読する。主にメディア研究方法について学習する。メディアの実証研究の読み方及び実証研究を実施する際に必要になる能力を習得することを目標とする。指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「メディア研究1」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 OABE330と同一。 対面(オンライン併用型)	
01DR390	インターネットと市民社会1	1	1.0	1・2	秋AB	火6	海後 宗男	この授業は英語でメディアに関する研究方法を学習する。実証研究における分析手法を学ぶ。多変量解析などの活用方法を理解できるようにする。この授業では、指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「Media Research 1」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 OABE370と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)	

01DR431	研究方法と研究倫理	1	1.0	1	秋A	木5,6	川崎 レスリー タック	本科目は、大学院生を対象とした学術論文および研究倫理の入門コースであり、特に初年次修士課程の学生を対象とする。講読と議論を通し、受講生は高い倫理意識に基づく研究デザインの基礎を学ぶ。本科目では、研究計画(主に修士論文)の構築方法、実行可能な研究課題の設定、適切な研究方法の選択、および研究結果の客観的評価と発表方法についても学ぶ。	01DP807と同一。英語OAB0005と同一。英語で授業。所属主専攻の科目番号で履修登録すること
01DR490	グローバル共生の政治と市民社会1A	1	1.0	1・2				日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	教室は人社A316 西暦偶数年度開講。 0AA3011と同一。 対面
01DR491	グローバル共生の政治と市民社会1B	1	1.0	1・2				日本の政治や市民社会に関する英語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	西暦偶数年度開講。 0AA3012と同一。 英語で授業。 オンライン(対面併用型)